

4.キリスト教

(1)キリスト教とは

キリスト教

- ・ イエスを救世主として信じる宗教である。聖典は「聖書」(旧訳、新訳)である。イスラム教、仏教とともに三大宗教の1つに数えられる。
- ・ キリスト教は様々な教派に分かれており、代表的なものに、ローマ・カトリック教会、東方正教会、プロテスタント諸教会が存在する。

キリスト教徒に該当する国民

- ・ キリスト教徒は世界各地に居住しており、特にヨーロッパ、アメリカ大陸における人数が多いとされる。
- ・ 東方正教会の信者はロシア、東欧諸国、ギリシアに多く存在し、それ以外の国では少数派である。
- ・ 食に関する規制事項がみられる末日聖徒イエス・キリスト教会(通称モルモン教)とセブンスデー・アドベンチスト教会はいずれも米国に本部があり、また米国内の信者も多い。

(2)キリスト教徒の食習慣

食に対する意識

- ・ キリスト教では、基本的に、食に関する禁止事項はほとんどないと考えてよい。宗教儀式や断食を行う場合を除いて、自由に食事を楽しんでいる。
- ・ キリスト教の一部の分派には、食を含めた様々な禁止事項を規程している宗派もあるが、少数派である(モルモン教、セブンスデー・アドベンチスト教会など)。

日常の食事パターン例

- ・ キリスト教徒に特有の食事パターンというものは特にみられない。さまざまな国民や民族がキリスト教徒に該当するため、それぞれの食生活の中において適切な食材が選択されている。
- ・ ローマ・カトリック教会では、「灰の水曜日」と「聖金曜日」の2日間に、「大斎」と「小斎」と呼ばれる食事規制がある。「大斎」では、18歳以上60歳未満の健康な信者が、朝食と夕食の量を抑える(同じ日に1回の十分な食事を取る)。「小斎」では、14歳以上の健康な信者が、肉食を避ける。いずれも、健康上の理由がある者は対象外となる。

「灰の水曜日」と「聖金曜日」は、復活祭(イースター)直前の準備期間である「四旬節」の初日と最終日に当たる。

- ・ 東方正教会では、主に修道院を対象に、「大斎」をはじめとする長期間の齋戒(1年に4回)1日間の齋戒(毎週水曜日、毎週金曜日)が存在する。齋戒期間中は「肉」「魚」「卵」「乳製品」「アルコール類」「オリーブ油」が避けられる(齋の種別によって異なる)。一般の信者は、これらの断食を比較的ゆるやかに実施している。

キリスト教の料理の特徴

- ・ キリスト教は世界の歴史に深い影響を与えてきたことから、世界中の様々な国の料理の発展に影響がみられる。また、キリスト教の伝統行事(感謝祭、クリスマス、カーニバルなど)では、七面鳥、羊、魚(タラなど)などを用いた料理が食べられる。

食に対する禁止事項と嫌悪感

- 一部ではあるが肉全般、一部ではあるがアルコール類、コーヒー、紅茶、お茶、タバコ

キリスト教では、基本的に食に関する禁止事項はほとんどない。少数派ではあるが、一部の分派では、食を含めた様々な禁止事項を規程している。

モルモン教では、アルコール類、コーヒー、紅茶、お茶、タバコの摂取が禁じられている。

セブンスデー・アドベンチスト教会では、信者に菜食を勧めている。

「ブイヨン」「ゼラチン」「肉エキス」には鶏・牛・豚・魚の肉や骨が使われており、調理時に注意する必要がある。

「バター」(牛乳の脂肪)、「ラード」(豚の脂肪)、「ヘット」(牛の脂肪)、「魚油」、「馬油」などの動物性脂は、調理時に注意する必要がある。「動物性脂」が使えない場合には、「植物性油」を使用する。

アルコールは「料理酒」「調味料」(みりんなど)「香り付け」「デザート」など様々な料理に使われることがあり、特に注意が必要である。

テーブルマナー

- ・ 一般には、食前と食後に感謝の祈りを捧げるなどの食事作法がみられる。

日本の食事で好まれるもの

<食事内容>

- ・ 日本の食事において、キリスト教徒に特有の嗜好は特にみられない。さまざまな国民や民族がキリスト教徒に該当し、食事の好みがそれぞれ異なる。

日本の食事で嫌われるもの

<食事内容>

- ・ 日本の食事において、キリスト教徒に特有の嗜好は特にみられない。さまざまな国民や民族がキリスト教徒に該当し、食事の好みがそれぞれ異なる。

キリスト教徒に対して良いおもてなしをするための推奨事項

<サービス>

- ・ わずかではあるが、一部のキリスト教徒（モルモン教徒、セブンデイズ・アドベンチストの信者など）には食事の規制事項があるため、食べられない食材については必ず確認する。個別の対応を取ると喜ばれる。

食事以外の禁止事項

- ・ 大きな罪として、自殺を戒めている。
- ・ 数字の「13」は不吉とされ、嫌われる。
- ・ 宗派などにより、様々な禁止事項が存在する（ローマ・カトリック教会には、人工授精、避妊、同性愛などを制限すべきだという態度もみられる）。

5.ユダヤ教

(1)ユダヤ教とは

ユダヤ教

- ・ 古代イスラエルに発祥し、唯一神「ヤハウェ」を信じる一神教である。ユダヤ人を神から選ばれた選民とみなし、救世主(メシア)の到来を信じる。モーセの律法「トーラー」(キリスト教の旧約聖書中、モーセ五書を指す) 律法「タルムード」などの聖典がある。
- ・ ユダヤ教を信仰する人とその子孫が「ユダヤ人」と呼ばれるが、厳密な定義は難しい。ユダヤ教は大きく3つの宗派に分けることができる。厳格なユダヤ教徒(「正当派」)は外見に特徴があって、黒服と黒の山高帽を身につけ、髭(ひげ)ともみあげを生やしており、食事の規程も厳格に守る。現代社会に合わせて、食事の自由を認めて生活をする「改革派」に属する人たちもいる。その中間には「保守派」がいる。

ユダヤ教徒に該当する国民

- ・ イスラエル共和国、米国、ロシアなど、世界各国に存在する(イスラエル共和国はユダヤ人の国家として1948年に建国された)。ユダヤ料理の食材が入手しやすい地域にまとまって住む傾向が強い。

(2)ユダヤ教徒の食習慣

食に対する意識

- ・ 宗教が生活の土台となっており、食生活を含め、個人の宗教や信条を遵守する傾向が強い。食事の規制事項があるため、口に入れる食材に対して非常に気を遣う。
- ・ 「カシュルート」と呼ばれる食事規程が存在し、食べてよいものと食べてはいけないものが厳格に区別されている。適切な食材を選ぶのは主婦の仕事であり、食べることが適当か不明な食材は、ラビ(=ユダヤの宗教指導者)に相談をして、判断を下してもらう。
- ・ 食に対して禁欲的であることが精神的だとは考えない。むしろ、心のこもったご馳走が宗教的な境地を高めると考え、断食の後の食事などを大切にしている。
- ・ 規程を遵守することによって、ユダヤ人のアイデンティティを守ろうという意識も強い。